

## 1 事業の成果

同性愛者や性同一性障害など性的マイノリティの人たちが恒常的に集えるコミュニティスペースを常時（週4日・年間述べ165日）オープンし専門のスタッフが常駐していることにより、そこがハブとなり、行政・教育などと連携が図れ、講演をはじめ様々な事業の増加にもなっている。なお、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、各事業において実施回数が大幅に減少した。

### (1) 健康支援

HIV 即日検査・カウンセリング・電話相談など総合的なサポート体制により、心と身の健康支援を7回実施。HIV 性感染症検査(受検者91名)においてはHIV(+)2件、梅毒TPHA(+)11件、B型肝炎0件の陽性者を医療機関につなぐことができた。

また、カウンセリング事業は年間53日実施し、延べ相談件数79件の相談を実施した(4～5月は会場の休館により中止。6～8月は団体事務所もしくはZoomにて実施した)。

電話相談事業「SHIP ほっとライン」の相談件数は、平成30年度は169件、令和元年度は203件、そして令和2年度が207件と、例年どおりの伸びを続けている。

### (2) コミュニティ支援

性的マイノリティが自由に集える交流スペースを週4日間、年間165日間オープンし、254名の利用があった。アンケート回収は201件で、そのうち、年齢階級別では、10代60名(30%)、20代62名(31%)、30代48名(24%)、40代30名(15%)、60代以上1名(0.5%)と10代から30代が全体の85%を占めている。

グループミーティングは、セクシュアリティや年齢別に6種類、35回開催し、参加者数は述べ126名であった(新型コロナウイルスの感染状況及び緊急事態宣言発令の影響により4～5月及び1月～3月上旬は会場が使用できずイベントが中止となった)。

また、行政との連携により、横浜市においては交流スペースを24日間開設、神奈川県においてはグループミーティングを6回開催、横須賀市においてはグループミーティングを9回開催した。

### (3) 性的マイノリティの人権擁護に関する一般社会への啓発

教育機関・行政における講演の回数は68回であった。(前年度は134回)。

## 2 事業内容

### (1) 特定非営利活動に係る事業

#### ① 健康支援事業

##### ア HIV/AIDS 等性感染症の検査の実施(厚生労働省エイズ対策研究事業)

- ・ 内 容 HIV・性感染症検査(即日検査)
- ・ 日 時 年7回 第三月曜日、受付時間 17:40～20:00(終了22:00)
- ・ 場 所 かながわ県民センター
- ・ 従事者人員 延べ24人(医師、看護師、検査技師、事務)
- ・ 受益対象者 県内および首都圏に住むゲイ・バイセクシュアル男性91人
- ・ 支 出 額 962,524円

##### イ カウンセリングによるメンタルヘルス支援

- ・ 内 容 希望者に対しての対面面接による問題解決支援
- ・ 日 時 隔週金曜14時～20時、隔週土曜12時～17時、隔週水曜17時～20時(計53回)
- ・ 場 所 横浜 AIDS 市民活動センター(中区尾上町3-39 尾上町ビル9階)
- ・ 従事者人員 延べ53人(臨床心理士)

- ・ 受益対象者 来談者 延べ 79 人
- ・ 支 出 額 275,783 円

ウ ホットラインによるメンタルヘルス支援

- ・ 内 容 電話相談
- ・ 日 時 毎週木曜 19 時～21 時 (2 時間)
- ・ 場 所 特定非営利活動法人 S H I P の事務所
- ・ 従事者人員 延べ 104 人
- ・ 受益対象者 相談成立 述べ 207 名
- ・ 支 出 額 559,150 円

エ 横浜市個別相談支援（横浜市委託事業）

- ・ 内 容 臨床心理士による無料の対面相談（4～5 月は電話相談）
- ・ 日 時 4 月～3 月までの期間 計 25 回
- ・ 場 所 横浜市内（横浜市青少年相談センター、西区福祉保健活動拠点「フクシア」）
- ・ 従事者人員 延べ 25 人
- ・ 受益対象者 延べ 23 人
- ・ 支 出 額 971,590 円

オ 神奈川県派遣相談（神奈川県委託事業）

- ・ 内 容 臨床心理士など専門相談員の派遣相談
- ・ 日 時 4 月～2 月までの期間 計 14 回
- ・ 場 所 県内（学校や公共施設）
- ・ 従事者人員 延べ 14 人
- ・ 受益対象者 延べ 14 人
- ・ 支 出 額 137,778 円

カ 横須賀市派遣相談（横須賀市委託事業）

- ・ 内 容 臨床心理士など専門相談員の派遣相談
- ・ 日 時 6 月～3 月までの期間 計 6 回
- ・ 場 所 県内（学校や公共施設）
- ・ 従事者人員 延べ 6 人
- ・ 受益対象者 延べ 6 人
- ・ 支 出 額 87,103 円

② コミュニティ支援事業

ア コミュニティスペースの運営

- ・ 内 容 性的マイノリティが恒常的に集える場所としてコミュニティスペース「SHIP にじいろキャビン」を開設し、情報の提供や相談を実施する。
- ・ 日 時 毎週水・金・土曜 16:00～20:00、日曜 14:00～18:00 延べ 165 日
- ・ 場 所 特定非営利活動法人 S H I P の事務所
- ・ 従事者人員 165 人
- ・ 受益対象者 県内および首都圏に住む性的マイノリティ 述べ 254 人
- ・ 支 出 額 3,077,525 円

イ グループミーティングの開催

- ・ 内 容 性的マイノリティやその家族が交流できるグループミーティングを開催。
- ・ 日 時 6 月 12 日～3 月 28 日の期間 35 回
- ・ 場 所 かながわ県民センター、神奈川県内公共施設等

- ・ 従事者人員 延べ 79 人
- ・ 受益対象者 県内および首都圏に住む性的マイノリティ、およびその家族 延べ 126 名
- ・ 支 出 額 521,242 円

#### ウ 横須賀市交流会の運営

- ・ 内 容 横須賀市における 10 代・20 代を対象としたグループミーティングの開催
- ・ 日 時 7 月～1 月の期間 9 回
- ・ 場 所 横須賀市内、公共施設
- ・ 従事者人員 延べ 18 人
- ・ 受益対象者 横須賀市とその周辺地域の性的マイノリティ 延べ 21 人
- ・ 支 出 額 114,634 円

#### エ 横浜市交流スペースの運営(横浜市委託事業)

- ・ 内 容 性的マイノリティの交流スペースの運営
- ・ 日 時 4 月～2 月までの月 2 回 (計 15 回)
- ・ 場 所 横浜市内 (男女共同参画センター横浜、男女共同参画センター横浜北)
- ・ 従事者人員 延べ 30 人
- ・ 受益対象者 延べ 73 人
- ・ 支 出 額 639,137 円

#### オ 神奈川県交流会の運営(神奈川県委託事業)

- ・ 内 容 性的マイノリティの交流会の運営
- ・ 日 時 9 月～12 月の期間 (計 6 回)
- ・ 場 所 藤沢市内、厚木市内、小田原市内の公共施設
- ・ 従事者人員 延べ 12 人
- ・ 受益対象者 延べ 8 人
- ・ 支 出 額 120,830 円

### ③ 性的マイノリティの人権擁護に関する一般社会への啓発事業

#### ア 一般社会への啓発事業

- ・ 内 容 性的マイノリティの理解に向けた講演を実施。
- ・ 日 時 4 月～3 月まで、延べ 68 回
- ・ 場 所 小中学校、高等学校、大学、行政施設、公共施設など
- ・ 従事者人員 延べ 70 人
- ・ 受益対象者 県内の学校教職員・生徒・学生、行政関係者、一般市民 延べ 3,940 人
- ・ 支 出 額 1,243,061 円

#### イ 横浜市啓発事業

- ・ 内 容 性的マイノリティの理解に向けた啓発動画作成およびタペストリーのメッセージ作成。
- ・ 日 時 7 月～3 月
- ・ 場 所 横浜市内
- ・ 従事者人員 延べ 8 人
- ・ 受益対象者 一般市民
- ・ 支 出 額 706,633 円